

柳菴一葉集

後編

一

14

3157

30(6)



14
3157
30
(6)

邕蕉翁卷曰附合文章茶話俳語遺法酒
息也一代之風藻雖不可盡于茲所謂親覲
於古書收藏於池庫者悉以舉焉

俳諧一葉集

前後篇九冊

東都書林

青雲堂梓

序

俳諧者死常乞而中格妙門也
世人妄謂一時戲言綺語也豈
丈夫耶蓋能致知而達理之常
變氣之順逆固守自得遊心於
太虛則語默作之無有不善故

棄名利而造之靜安可獲焉誠
意而為之身脩家整舉不外乎
此矣昔從芭蕉啟正風雲從風
靡今雖其流間有渚者泝源者
亦不少也屬者社友集錄翁一
期所嘯以為小冊以便卷懷可

謂夜行珠矣傳曰法不自顯弘
之在人湖子其人乎是為序
文政十亥歲四月

仙波僧正書于蒼苔菊

林中之谷神齋 四藺



俳諧一葉集紀行之部

甲子紀行 又稱野

曝紀行

名里より松立し浪野と色は三更月二舟白入とひひけん
むの人の杖すすううと真亭甲子秋八月江戸の破屋を
立寄る風ありそるまひけり

秋十とを却て江戸もききり古
并るるらんと西海と山とれもかきり

古亭庵佛号
幻窓 湖中
坎窩 久藏 校 編

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 秋、冬、春、夏 and 山、水、花、鳥.

寄附向不てとんぬりそせしるま
何し千里とまけははひのそめたはけとあつて夢のこころ
心もつて一はるきと英運のわらうはく曲友と信るは
此人

深川やきききと不二平河のけりく 子里

不登川のいさくをゆへに三はくあつたけりの河をれけり
位ありけ川のいさくをゆへに三はくあつたけりの河をれけり
とらうはあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ
やちうふんあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ

精をもぬ人けりて秋の風をこころ

いさくや母父と増れしと母とと増れしと父の母を悟
ちとあし母の母をこころとあしと母の母をこころとあしと母の母をこころ

はらあまをなは

大井川をこころとあしと母の母をこころ

秋のなは向はるてゆのねん大井川 子里

る上の吟

是のまむれ本輝ハるてゆのねん大井川

廿二河の月のあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ
鞭をこころとあしと母の母をこころとあしと母の母をこころ
中山の西をこころとあしと母の母をこころ

下りてあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ

杉葉屋の風流、伊勢のあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ
下りてあまのりてけ置けん小萩のまの秋の風をこころ
多子十八の珠をこころとあしと母の母をこころ

三

信ありていづく取つた法の本

ひさし身地のたぐいもあらうらんやとて山深く白を
ゆきまきつた南をきつて山深のたぐいしよらんひさく西
く本を伐り東のきつて院の深のたぐいひのたぐいこもみ
昔より山に入つてきつてまねらん人のたぐいひのたぐい
あつたかといふやとてたぐいひのたぐいひのたぐいひ
ゆきまきつた南をきつて

信ありていづく取つた法の本

あつた人のそのたぐい法をたぐい院のたぐいひのたぐいひ
入つてまねらん人のたぐいひのたぐいひのたぐいひ
たぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひ

とていづく取つた法の本

あつた人のそのたぐい法をたぐい院のたぐいひのたぐいひ
入つてまねらん人のたぐいひのたぐいひのたぐいひ
たぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひ

あつた人のそのたぐい法をたぐい院のたぐいひのたぐいひ
入つてまねらん人のたぐいひのたぐいひのたぐいひ
たぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひ

不破の法

あつた人のそのたぐい法をたぐい院のたぐいひのたぐいひ
入つてまねらん人のたぐいひのたぐいひのたぐいひ
たぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひのたぐいひ

大垣より入る初の本因の宿をこまにみるゝむきかゝる
対峙するさまを心ゆく思ひて松をけけれい

死をさぬ旅のつくしの秋のこね
素名が宿ちか

み牡丹のまよふおもひのこ
まの枕より宿をこまにみるゝむきかゝる

あけほのまよふおもひのこ
熟田の宿の社殿大に破れ落ちたのちかして学び

かくつりしを強と強と小社の法をまよふ
るや神と名のまよふのこまにみるゝむきかゝる

めしぼるゝとむきかゝる
まのふさく松を餅よりむきかゝる

名遣屋より入るその色と紙のまよ

狂白本より其のまよふのまよ

松枕大を志るゝとむきかゝる

おとしよりむきかゝる

市人よこのまよふのまよ

松人もん

うまのまよふのまよ

海をこまにみるゝむきかゝる

海をこまにみるゝむきかゝる

くまのまよふのまよ

春とねぬまよふのまよ

と山あふ年をこころ

清輝るる春の餅ねむのこ

念ふらふくもその心

まふれやうたふふ山の物さう

二月あふ花

水取や水の信は昔のね

高きうらう三井杉の写流ぬ山を

梅林

くた白しきのふや花をぬき

梅の木の花がかりぬすこころ

伏見西岸古任口上人の

春衣の伏見の木の春さよ

大はるむる山をこころ

山は春のやうにさうれ

山あふ

かろきねの杉をこころ

春の山をこころ

山は春のやうにさうれ

吟行

山は春のやうにさうれ

水は春のやうにさうれ

命は春のやうにさうれ

伊豆の山をこころ

春の山をこころ

ぬくくくや石のおやの昔の家
宗波
縁ありやがまきくおくまのち
曾良

田家

かろけけ田圃の秋や里の秋
柳青
夜田うらみ赤やとれん里北有
宗波
秋の子や穉すうけく月をこる
柳青
芽の紫や有かみ里お焼さけ

野

もよみや一花すうは萩ころも
曾良
あつ秋子すういゆく時るうま
、
萩もや一花ハヤとさ山のぞ
柳青
的は自準ふたす

樹をよまう干たけ友すう
松江
秋をこめうらくわのき
柳青
月入んとしひのちる舟と見え
曾良

貞享丁卯仲秋末五々

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

卯辰紀行 又稱芳野紀行

百餘九竅の中より物なりかき名付く風心野切と云珠子
くすもの風心破とやすふんていさう和河ふんかれ狂
自を西心てくし終子生流のくうていさう疾射を
使く放擲せんていさういさう射すんて人かかぬを
かくし是非抱中よりいさういさういさういさういさう
あつて人ていさういさういさういさういさういさう
そく更ていさういさういさういさういさういさう
す能年暮ていさういさういさういさういさういさう
宗願のまきあつたけり舟の情いさういさういさういさう
今更そすものハ一よりいさういさういさういさういさう

く伊勢を友とす尺く和花をいさういさういさういさう
空の月をいさういさういさういさういさういさういさう
いさういさういさういさういさういさういさういさう
いさういさういさういさういさういさういさういさう
和花月の初定さつめいさういさういさういさういさう
地いさう

旅人ともいさういさういさういさういさういさういさう
すさ山景いさういさういさういさういさういさういさう
岩峰の位長た即とていさういさういさういさういさう
并送くいさういさういさういさういさういさういさう

みんいさういさういさういさういさういさういさういさう
けりいさういさういさういさういさういさういさういさう

とく旧友親疎同人おめりハ付寄文章をもし付成を
字粒の料を色く巻を尺半の三月の程をいゆむ
一芥の力を入り紙衣線子をもその帽子志す付成
物心に給つつとひくおもひの書をもいふや
成小舟をもくくおめり没一巻虎の海者おんき来
ゆく原を祝一多跡を憶ふ外すつてマノ何れ人
そ通すともいへるといふと抱ゆる一く文もまけれ
そもくそのり紙をもその紀も長ぬ所佛の尼もいふ
い情をも盡すともいふは似ゆるいひて其糟粕も
らくもつていふともいふは似ゆるいひて其糟粕も
めづりたりと海屋よりされくともいふは似ゆるい
物とを川をいふともいふは似ゆるいひて其糟粕も

昔も蘇新のちりちりいふは似ゆるいひて其糟粕も
お風流心を結う山鏡お亭の昔も結も且、新の情
あり風流の心も結うとも思ふいひて其糟粕も
久やや世もあつたる程破つもの情けいひて其糟粕も
人の情けすともいふは似ゆるいひて其糟粕も

鳴海とわらう

日暮のちりちりいふは似ゆるいひて其糟粕も
我も丹精草のちりちりいふは似ゆるいひて其糟粕も
みよこもちりちりいふは似ゆるいひて其糟粕も
そいふともいふは似ゆるいひて其糟粕も
来すともいふは似ゆるいひて其糟粕も
みよけのちりちりいふは似ゆるいひて其糟粕も

人の先越人子皆思ふに思ふはるはるに二十五日又
功のそ女取より思ふはる

そけいふ二人あつたふたりの事

あまの磯手田の中をたうそめりてあまの磯に決す風を
まきあふ

あまの磯やうきうきあつたかたけり

保良村より行良古崎へ一里をくぐりて三河の地
はまきし伊勢の八幡浦へまきあふもかたけり
あまの磯よりたうそめりの中をたうそめりてあまの磯
に決す風をまきあふ
あまの磯やうきうきあつたかたけり
あまの磯やうきうきあつたかたけり
あまの磯やうきうきあつたかたけり
あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

あまの磯やうきうきあつたかたけり

かた後、さなふ沙走す、跡、る、護、屋、を、か、り、旧、里、を、入、り、と、り、

旅、れ、さ、尺、一、十、浮、き、の、如、く、さ、り、い、

葉、を、さ、り、く、く、さ、木、ぬ、れ、は、さ、り、水、の、里、を、さ、り、く、く、さ、木、は、た、を、
坂、の、ち、の、は、い、新、橋、お、ち、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

か、ち、さ、り、く、く、さ、木、の、き、坂、を、さ、り、く、く、さ、り、

と、物、さ、り、の、餅、う、さ、出、付、れ、さ、り、跡、の、季、の、初、入、り、

百、さ、り、く、く、さ、箱、の、跡、を、さ、り、く、く、さ、り、

右、の、季、の、ち、の、は、い、跡、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、
行、く、れ、

二、夕、夕、と、ぬ、く、く、さ、り、く、く、さ、り、花、の、春、

幼、妻、

さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

枯、葉、や、海、の、跡、を、さ、り、く、く、さ、り、

浮、賀、子、阿、波、尾、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

佛、寺、と、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

く、礎、も、跡、一、村、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

苔、の、み、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

く、土、人、の、跡、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

跡、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

の、跡、を、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

又、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

旅、主、蟬、吟、の、跡、を、さ、り、

さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、く、く、さ、り、

竹野山田

何れ木の花をきこしむらさきの花

稽野のひまき

け山を止りさきよ花をきこり

龍尚舎

物のをききまのりふ籍のそとに

彌代民部をきり舎

梅の木やふゆやとく木や梅の花

学危舎

茅植る門をききみわぶらとく判

津垣のらら梅一本をききこりぬ

目かの手をたれふ花をきこり梅一本をきこり
も良の習のららこきり梅一本をきこり

津垣や梅をきこり梅一本をきこり

やふいふきこり梅一本をきこり梅一本をきこり

ひく枝おとれきききき梅の花をきこり梅一本をきこり

つく古跡をきき梅一本をきこり梅一本をきこり

旅人のゆきをきき梅一本をきこり梅一本をきこり

たしむるきこり梅一本をきこり梅一本をきこり

それよきこり梅一本をきこり梅一本をきこり

乾坤無位同行二人

すしものく様見きう了柱本堂。
すしものく系も尺巻しう了柱本堂。 万巻丸

旅の具やはるくささうしきくとも物入れくひ旅もよも
ふくの料もかたきひの合利すの物入れめめさふ直るは
物さきてしるくさめひいれいも勝まきく力きくもの法
さんにひいさうさくしきめ法すさひきいひのしきのめし
まけくわすく了らや者のもくさ

くろの巻

まのねや罷人ゆりききのう

こ新くく信り尺巻しう了柱の巻 万巻丸

葛珠山

たぐしーしだきりけゆく津の巻

三編多武峰 編味 も武峰まも能
門くしーくさ

やうぢくくせりやすくふちあかひれ

花門

花門の花や上戸けちききせん

浪のうかきせんうの巻の巻

西河

わろくく山うをらうの巻の巻

靖鈴花 布留の巻 布留の巻 二十五丁山のはくき
布留の巻 不幾田の川上うめり 大和巽西巻巻
寺くくくさくめり

様

さくくききくさくにし五里六里

可々花を著しきふやあふあふ
扇をいへるうけやあはくら

昔情水

まきの木に手はくまきんつ
よーれのもつにひまひまひの
まの月のあふあふまの
振返りの後とくくはりの枝あふまの
これにあふくまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

ふゆ

父母おきまにまのまのまの

あふまのまのまのまのまの

和歌

まのまのまのまのまのまの

紀三井

晚ハやあふあふあふあふあふ
かあああああああああああ
造化の良くも足あふあふあふ
人の愛あふあふあふあふあふ
八達甲のまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

春の物もいづれみあはれ人の将らふは
あしこふこふ

海すのうねまはるるは

東は西は南は北は
すくなくも
かこもす
およ手干ら
みく
古残防の
遠くは
ひきす
すす

あふゆり
と
若根も
は
門

次
時
は

の

皆

か
は
は

四の...
...
楚東南の...
...
丹波...
...
谷内...
...
船中...
...

九

入城...
...
...
...
...

[Faint bleed-through text from the reverse side]

あけをみく大根かきし秋の風
木石の縁なき世の人北ち度うま
思ふまじのわらうはくをハ木石の秋

善光寺

月影や四門の窓も只ひら
吹飛するを御百は世かゝる

北くのわさき

月影を百代の過客にさゆかふ事と又旅人き舟の上
生涯をうらうのほくして老とあふものひらけ旅に
旅をすくこと古人もおほく旅をきりし事とつたれ
幸もしらけやの風をさうりけれは懐伯の心やまは海濱
さすく七年の秋は上北破屋の古葉をさくつて
もこれまきまの雲のやうきり川の岸にさくつて
物をつたてて心とくつてそ祖神のまひをきりひて
まひつたう殺しの破孔もはくまの秋はくま三里の
すくつて松島の月をみる心とくつてはる方か人今ゆつた
風をさきまきつて

子の戸も伝きつて代了ひまのあ

四ハ刀を片の程にけり置やふも末は七ののちの御
と一二月ハ元命の末くはたねののり不二のまのり
うす尺、ご上野倉中の花の梢にけりうらたのむを
まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき

ゆくまや 舟中一息に舟をまき

これと末は元命の末くはたねののり不二のまのり
中うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき

まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき
まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき

まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき
まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき

まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき
まきかちやくハ青きけりけり、舟にけりて送るま
うさくも舟をゆれハまきこふ里のまのり納すも
かしに静ののほをまき

元

二七四

おぬき体しりしとふふの併の湯をきちしおぼしめし
意門の乞食唯礼しとふの人をたしめりしやとありしのおす
りし心とふふとふふの只多智をふふしりしと直備固け
しありし割穀本初めにしりしとふふの只多智の湯をきち
しりし

お月形をゆしりし指ぬすは昔はゆしと二荒山とせし
と海大砂に置きの時と夫とありし人の子と本未とせしり
しりしとふふしゆまうとふふしりしやふし思ほ八葉はゆしりし
安流の極おしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし
ゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし

思致山ハ云々
判抄ニ思致山ニ云々
曾良

曾良ハ何合やしりしとふふの併の湯をきちしおぼしめし
予の薪水の芳しとふふとふふの併の湯をきちしおぼしめし
しりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし
思致山ハ云々

二十路下山をのりしとふふの併の湯をきちしおぼしめし
岩の壁を攀りしとふふの併の湯をきちしおぼしめし
れりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし

お飲の湯をきちしおぼしめし
直せしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし
りしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりしゆしりし

此の頃より、
すう情しぬらぬいすわわきれいすわわきれ
横らぬれらぬいすわわきれいすわわきれ
竹れははらぬいすわわきれいすわわきれ
ららぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
ををかきぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ

やうし人里ふれぬいすわわきれいすわわきれ
里所の館代浄切寺何うの方におつとこいすわわきれ
けはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
けはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
けはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ

わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ

わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ

わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ
わはぬいすわわきれいすわわきれいすわわきれ

五つ山にたぐりけしきし言をたぐりし松敷くわく若志
くくく知月かたと程きや十糸たの松をばて山田八
さくかの法をいひくの時ふやと好の山をたのむれは石上は
小虎若窟と結ひけしと好原砂の死舞はやしは砂の石をま
んくくく

本場く虎を修くくくく 五 本を

と云はぬぬ一むを柱す結し修しうれう殺生石すゆく
能代よりくるくくくくくくくくくくくくくくくくくく
やきききききききききききききききききききききき

野を横り了しひひひひひひひひひひひひひひひひ

頼生石を源泉の物さゆけしめく石の毒毒いふくくくく
時時にくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
お戸敷某のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくく

田一板 植すくくくくく 柳 〇〇〇

心許さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
舞ハ三関のくくくくくくくくくくくくくくくくくく
紅衣をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
最の花は咲くくくくくくくくくくくくくくくくくく
衣装をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 骨良

はかききハ原の面いんやふんたふんたふんたふんたふんたふんたふんたふんたふんたふんたふんた

目録の... 四法六法の山際一里半... 替ふ大子の法外... けこ... 一先... もの... 寺... めし什物...

及く左刀を五... かくれ紙帳

五内... かく... い... 志... 折... 又... 大... 旅... 純... つ... 障...

とてゆるゆるとさしむるまじきよしをいひてあつし
竹丸かまきりもあつたつと見えしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
たれあつしあつしとて

さしむるまじきよしをいひてあつし

岩はさや

我限の松すゝすめ受ふれば根と主障すゝ二本をわ
れもむすゝの海すゝあつしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
おはさすのめりもすゝあつしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
松すゝれもすゝあつしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
後すゝ代にりもさす伐成に植提ちとせとてさしむるまじきよしをいひてあつし
おろすちとてさしむるまじきよしをいひてあつし

たけさすれ松たきやせ逢さすゝとてさしむるまじきよしをいひてあつし

はたけあつしあつしとて

様すゝ松を二本を三月伐

名あり川を渡して松木を入りや先かきし松木をいひてあつし
四ふま違ふすゝに画工かまつとてさしむるまじきよしをいひてあつし
とてさしむるまじきよしをいひてあつし
おろすちとてさしむるまじきよしをいひてあつし
やとてさしむるまじきよしをいひてあつし
松の林に入りさすあつしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
とてさしむるまじきよしをいひてあつし
とてさしむるまじきよしをいひてあつし
且辨の松たけすゝ松木二足あつしとてさしむるまじきよしをいひてあつし
とてさしむるまじきよしをいひてあつし

上平海にありて... 此中... 松島... 平戸... 依りて... 去成... 十二平和...

傳へて人治... 船入... 三代之宗... 御り...

のちれハ北上川あり於てふうて大河ハ衣川ハ和泉珠をめぐ
てて言智のつてし大河ハ入原御ホの四倍ハ石ノ岸と隔る
南流ハとさしつりて矢東ヲ防くと尺ハいふても義言す
まて此城ヲ籠り切若一時の事わつてはる國破れく山河り
珠者うして早まてくつては打あつて時のつては海を
る一竹のぬ

なまや住くものとも、言の河と

うの志うとあふんぬの白毛うれ 曾良

かむし耳勢しつるニきま帳すはきり三将の傍と結し
矢きり三代の槍を張め三考の佛く安置す七言ふあを
く珠の尻風り破れまの柱をたてたて既く新渡を在
の幕とれく人も四面りくかみく甚友とて後く風向

このく書海ま宗本の代念とるまなり

さみくぬれ海一結してや光 巻

まぬれそくくも尺やうと若きの里を泊り小庭寄くつの小と
もこくあるこの流りく風おの岸とくつては出羽ありん
とて此法松人せれあつたなれハ岸ありや ぬくもつて
かきと岸をこつ大山をのりて日改り昔けはハ村人の家
を足つけく食つてもむ言風をゆれくも ぬくもつて
習きつてみうぬ録する 巻

ゆいぬえこれなるお相あり大山を隔るそさしつらなるさ九ハ
そきくの人をたのいこくはさしつらなるさしつらなる人
ものくけれハ寛慶の若もの及船差を横く横の杖を携て
先く先くさしつらなるは危ぶめくはつてぬくもつて

かゝる御用をなすに... 尾花... 志... 尾花... 志... 尾花... 志...

尾花... 志... 尾花... 志...

尾花... 志... 尾花... 志...

尾花... 志... 尾花... 志...

山形... 尾花... 志... 尾花... 志... 尾花... 志...

尾花... 志... 尾花... 志... 尾花... 志...

昔道角一帯の地をわたりけしきとすとて只一と新吉の
 名にふらふらふらとてはたかき人一人あけとて
 あふ一き跡一あつての地をわたり
 せつし川にみちをくまうとてはたかきとて人
 ちとあつてとてかきとてはたかきとてはたかき
 事之河田の海に入らふたてはたかきの中一舟をこし
 こふしとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 世のいふしとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 何やとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 ちとあつてとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 六月之羽道にふらふらとてはたかきとてはたかき
 代合はたかきとてはたかきとてはたかきとてはたかき

昔道角一帯の地をわたりけしきとすとて
 只一と新吉の名にふらふらとてはたかき人一人あけとて

昔道角一帯の地をわたりけしきとすとて
 只一と新吉の名にふらふらとてはたかき人一人あけとて

五の権現子端山用解融除大少ハハこれ代代人とて
 をいふは、安井式と羽沙里山の神科、つと書寫里の字を
 里山とせきとて羽沙里山と中略一と羽道山とてはたかき
 出羽とてはたかきとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 竹とてはたかきとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 敷子属一と夫台止観の月のつとてはたかきとてはたかき
 うけとてはたかきとてはたかきとてはたかきとてはたかき
 霊山若城の験効人貴し且恐る祭宗長とてはたかきとてはたかき
 何やとてはたかきとてはたかきとてはたかきとてはたかき

長ふきと海へ入らるる女

江山水陸の風光をも盡したる家邊の方寸をきよめ海田の
 暖く東山の方寸をくゞても傳ひいへとも踏くる際十
 里り氣海やかくくは海風志砂を吹上雨襟裾くくく
 多海の山かくつ閑けし英作くく向く又赤ぬくくくく雨
 後の暖色まゝ彩申くくくめ海の管の膝を入る雨の晴
 をもくくくお天くくくくくくくくくくくくくくくく
 多海や舟をくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 の海を伝ひいへくくくくくくくくくくくくくくくく
 じくく梅の志木死りけめか念をも跡に上り海陵ゆく
 神功后宮の御尊をくくく寺をくく満珠くくくくくく行幸
 ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

三十七

長をもち挑ハ風系一眼の中をくくく南き海をくくくくく
 かりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 も海く秋田くかかふさくくくく海もくくくくくく浪歩入る
 雲とけくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 又くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

まさきくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふ記

家邊や神即何くくくくくくくくく 曾良

みくくくくくくくく

あふのあや戸板をくくくくくくくく 伝身

三十八

一女子遊女とぬくく萩の月

曾良とがれはせしむ侍るくろ廻四十八の嶽とくやぬく
ぬ川とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くく初秋の衣とくくくくくくくくくくくくくくくくくく
候つくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
せむの一枚の衣とくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

卯の志山とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
大坂とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
一帯とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
塚と勤け糸匠とくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆき雪庵のいそふくれ

秋すくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

色中金

あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

小松くくくく

志保くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此書は田の神話と神宮寺の甲斐のきれりくくくくくく
集とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

むらんやれかよのふおきんく

山中の温泉にゆくはきく根を森法師大姉の御ゆむ左の
山陽の親方寺の山は空三十三所の唯礼子まき多ひて
は大慈大悲の佛を安置しんふひて御告も名付らふて
谷組の之をまきくは侍しんふ古松極ありて
昔より少のホキ岩の上を造りけり珠佛のちたし

石山は石くまらりー秋の風

温泉に侍り侍りてくまらり

山中や菊りよきくぬ湯のまらひ

あしとすものハ久米も助とて少きしかれ文徳佛を
みほの良室に坐すのむうに末の風物もまらりて
らとくは玉の良徳の門人て戒ききりまらり功名のほり

一村お河の料を清きく文むりかきくまらり

曾良の娘も病く侍せ玉長を中へまらりゆりぬれは

ゆきくくもあれはくも萩めくく 曾良

とまらりくゆりぬれはくもみ離を記のこまらり

ゆりぬれはくもみ離を記のこまらり

ゆりぬれはくもみ離を記のこまらり

大聖寺の妹か令る寺とまらり伯の於か架の地くまらり

のねはくまらり

秋の風ゆりぬれは

とみらり一板の隔ち里子同一まらり秋風をゆりぬれは
けのわりのまらり清経をすむまらりに鐘板鳴り食ま
り入り少を妹あまらり心早卒まらりまらり

停るも残魂をうき階のまじりかひ来りおそむ庭中へ
極られハ

庭掃くやうや寺子らう 柳

ふゆぬき片々子粒あつるまけり境前の境吉峰の入に
を舟に棹さして以越の松を尋ねぬ

松をすくう風を 波をよここをさく

なまこいれもやうはら 一の松 西行

はこそし風をさくも一辯もかたつものひき用の松
をさくも

丸茶の影寺の長老古く因りれは若ぬ又釜河の小枝は
この徳神子尺送くは雲をましましひ来り雲この風をさく
さくこのひらけきおそむれあつ化を外にゆゆを既り

こころをさく

物さく扇のさく時時つれ

又十下山へ入る小平方を礼す是え経師の御寺に邦操まほを
廻りかたふ山はけを法を教へり貴衣をぬきそくや福井を
三里はくつれハ飯志とあてゆきはもとあつるも
こころをさく扇をさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
あめあつすくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
よやんさくおねれはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
そくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
まはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
けぬく女のあつはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく
ア何しはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさくはさく

そらけゆくかきしりて我子もさそくもさくちをあう海通々
けみりよきしむむいひくみゆきつはつ子弱きにすけし
れく大垣の宮入ハ曾良も侍あうり本ありゆひ越人をも
飛さく如ゆり宮入集りお川子荆は父子もかきしき人
人の秋訪ひさき蘇生ゆものり色さくく且恨い且いさ
秘のたしと心算ささるり長月おるりれハ侍あは
きおへも又舟りけり

蛤

あさみ

これゆき秋了

俳諧一葉集文々部

古学庵佛号

編

幻窓湖中

坎窩久藏 授

菊也並解

菊もも花散りさくえんは水のまの君もあつ牡丹を紅白の是狂
頂りて五葉散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき
花散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき
桂風もも花散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき
花散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき
人味もも花散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき
花散りけりさきも花散りてあつはあきまうとさき

みらねくのり押さふまゝこゝに後庭既_二はる人_一すれハ
かれ_二ま_一たの_二障_一地を_二し_一ち_二ら_一ん_二人_一し_二ち_一の_二を_一
ひ_二風_一か_二ら_一の_二れ_一ん_二し_一の_二み_一ち_二は_一れ_二を_一華_一た
す_二さ_一ひ_二の_二書_一物_一か_二さ_一ひ_二に_一ま_二あ_一れ_二や_一ま_二さ_一の_二松_一
あ_二の_一む_二ひ_一わ_二り_一人_二の_二い_一た_二そ_一の_二松_一こ_二の_一い_二ま_一
ろ_二ひ_一の_二松_一し_二の_二ま_一秋_一を_二さ_一ら_二る_一心_二色_一を_二し_一
依_二る_一ま_二の_一は_二花_一ら_二そ_一の_二め_一り_二ひ_一も
さ_二ら_一る_二ま_一の_二人_一の_二ち_一き_二ら_一も_二あ_一ら_二か_一ら_二ん_一の_二松_一
は_二ら_一る_二ま_一の_二書_一物_一か_二さ_一ひ_二に_一ま_二あ_一れ_二や_一ま_二さ_一の_二松_一
一一_一秋_一の_二程_一い_二ま_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一折_二戸_一や_二す_一ら_二の_一
ト_二松_一あ_二ら_一ま_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
代_二ハ_一不_二ニ_一ち_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
代_二ハ_一不_二ニ_一ち_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一

新江は

三才の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
れ_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
し_二先_一を_二置_一を_二し_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
成_二ハ_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
を_二く_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
も_二谷_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
傍_二松_一素_二ハ_一是_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
を_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
を_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一

宋門強 存_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一
古_二の_一松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一か_二ら_一の_二松_一

新江は

新江は

海切まゝに。れを情むそわうを。照てひ。ふ。子。庭。を。取。
ひ。新。白。子。清。を。も。う。千。尾。繪。を。こ。の。み。風。終。を。お。こ。し。
ま。う。こ。ろ。み。を。う。け。て。何。の。お。り。の。心。也。風。終。の。お。
み。お。い。ど。う。風。終。の。お。き。を。う。や。画。の。お。お。し。と。と。う。女。
さ。あ。ま。い。に。二。う。し。く。用。を。あ。ま。う。く。一。か。う。ま。ま。と。や。君。子。を。
多。能。を。解。り。し。れ。お。お。二。一。し。用。一。な。う。と。感。を。入。ふ。え。わ。
繪。の。お。し。予。の。沙。と。風。終。の。ま。く。く。予。の。才。を。あ。ま。う。
さ。れ。と。て。沙。の。画。の。精。神。惚。入。筆。神。妙。を。繪。し。其。画。を。
あ。ま。う。予。の。う。く。あ。ま。う。め。う。予。の。風。終。の。文。體。を。庭。此。
し。一。一。の。さ。う。く。し。用。の。は。お。只。靜。阿。西。の。詞。の。か。り。
る。女。子。の。ひ。ら。く。さ。れ。あ。ま。う。は。く。ふ。わ。く。も。め。あ。ま。う。
お。お。い。一。後。の。物。上。の。ま。ま。も。か。物。も。こ。れ。は。か。り。

情しゆりてまゝの。か。り。か。り。の。こ。も。か。り。か。り。
と。も。さ。れ。い。は。し。と。あ。ま。う。ら。う。と。も。一。を。ほ。し。と。一。か。り。
も。あ。ま。う。し。と。あ。ま。う。も。あ。ま。う。れ。情。を。入。の。か。り。と。い。ひ。古。
人。の。ま。ま。あ。ま。う。あ。ま。う。も。あ。ま。う。南。の。大。沙。の。名。の。ま。ま。
た。し。と。風。終。の。ま。ま。あ。ま。う。あ。ま。う。か。り。と。い。ひ。か。
け。と。案。門。の。お。ま。ま。あ。ま。う。し。と。う。と。い。ひ。の。ま。

送海六辞

本島海をくさ。旧里を。情。入。の。森。川。が。許。を。う。け。古。よ。
風。終。の。情。を。入。の。こ。ろ。一。か。り。と。あ。ま。う。け。を。難。と。い。ひ。と。
ひ。と。あ。ま。う。れ。を。ま。ま。あ。ま。う。し。と。あ。ま。う。の。ま。ま。あ。ま。う。と。い。ひ。物。
の。ま。ま。あ。ま。う。し。と。あ。ま。う。の。ま。ま。あ。ま。う。の。ま。ま。あ。ま。う。と。い。ひ。物。

藤子とさみみうけのそとらと捨をいもてそふり若
意のくろくへ胸おのまをそへに風子ひくくへそふり若
山人のちえいそへんか

松の花ぬらうるまの似よ木名り松
しき人れ松くへしきく木名り松

海六とあり一白は決定すくふくへそふり若とて誠作の
かこみか二ふくならん松とて

送信尊吟解

杖改り字難そへけと筆のうらと名をいもてそふり若
手やういのはいぬ信を武江の東原川のそふり若をいもて
既子一歩そへていもていもて信尊の風流をこのへ市と

越え手し斗難り脚の真とめりて又信尊の風流をいもて
信人としていもていもていもていもていもていもていもて
そふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
中のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
うれそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
かのそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
まのそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
そふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若
そふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若

既守賦

そふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若のそふり若

鳥賦

一鳥小大有りて居るも其まじり小を鳥鶴といひ大を白鳥を
 としよけ言及哺の若を僕とて中の童子とけり或ハ
 人たありゆく人そつれ記はる翅をあらく二星の蝶と
 けり或大季のやうくそ知し其れをさくくそ其れを
 らいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそい
 ゆくた人て訪歌の才とけりいそいそいそいそいそいそい
 かしちそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 うそふつれをそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 性信強きありそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 をおそれれ肉ハ勝るの味とくそそそそそそそそそそそそそ

啼対を人不向の言を抱くそそそそそそそそそそそそそ
 ちふ里をゆりていそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 を替へてそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 うみはの翅をあらく人ハそそそそそそそそそそそそそそそ
 て強きいそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 かうそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 さうそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 候する人うゆりてそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 も甚しそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 三星の金鳥の羽をあらくそそそそそそそそそそそそそそ

笠張院

くうに... 大... 此...

銀河序

お陸... 十八里... 横... かく... 入... 一...

碧... 一... 一... 一... 一...

海や川

伊勢記

妙... 一... 一... 一... 一...

水のほとけなる御舟をこしゆく跡に一挿と百川の流るるを
まねてわたりし一まの秋の... ありて侍あり清く白
川の秋舟より川の流るるのわらわを... のありけ
あはれし... かつた... こと... あり...
おん... こと... こと... こと... こと...
三つ... こと... こと... こと... こと...
よれ... こと...

あはれし... こと... こと... こと... こと...

善虫跋

善のたたりておの... こと... こと... こと... こと...
一... こと... こと... こと... こと...

又言ふ... こと... こと... こと... こと...
こと... こと... こと... こと... こと...
事人... こと... こと... こと... こと...
の南... こと... こと... こと... こと...
物... こと... こと... こと... こと...
事... こと... こと... こと... こと...
事... こと... こと... こと... こと...
事... こと... こと... こと... こと...
事... こと... こと... こと... こと...

再いふはとて思ふはけは甘き一あしとてかしの思ふ
くはしむしはけの思ふはけとてあはの思ふはけの思ふ
むの思ふはけの思ふはけ

虚業集跋

東くよよ一昔甘味はり
春杜の心酒をよめて算山は樹をすくくわよよのき
甘白くよよはけのきくきくき
徒に風移のそのきくきくきくきくきくきくきくき
しらぬ思ふはけ
志の情つ〜〜〜む〜〜〜の思ふはけの思ふはけ
小島上陽人の思ふはけの思ふはけの思ふはけ

下の思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
ゆの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
後をよよの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
其語震動をよよの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ

閑居箴

ゆの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ
思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけの思ふはけ

おしめけのききふらぬ又もききふらぬ入てききふらぬ

海の色ハいしんわんじりよりの色

自得箴

ゆるふこころいしんわんじりよりの色
行て

あつてふ人のあつて入ん手の色

札銘

あつてふ人のあつて入ん手の色
あつてふ人のあつて入ん手の色

あつてふ人のあつて入ん手の色
あつてふ人のあつて入ん手の色

あつてふ人のあつて入ん手の色

座右銘

あつてふ人のあつて入ん手の色

あつてふ人のあつて入ん手の色

紙之銘

あつてふ人のあつて入ん手の色

一 重 山 自 笑 梅 箕 山
 莫 懷 首 陽 餓 遠 中 飯 顆 山

歌公のたふらふ生かたみよめふらふ子つらふ時
 所へてふらふつらの心も是をたみみつけ
 人よ急ぎよんたれはたこのつらふらふ
 つらふて海をもよんたれはたつらふらふ
 夢虎のいみしき輝入つらふものぬらふと
 心ゆらぐれやうし用ひては士素病を
 きしむ女よと疾はたけうけう世のれふ
 子つらふらふ中よと飯顆山のむす
 李白のよめよめの中よと李白のよめよめ

きつと人よとつらふらふらふらふらふ
 是一重よと重よとつらふらふらふらふ
 物らつらふらふらふらふらふ

極古翁

つらふらふらふらふらふらふらふらふ
 お月まきまらふらふらふらふらふらふ
 とらふらふらふらふらふらふらふらふ
 難の廣心よとつらふらふらふらふらふ
 をはくえつらふらふらふらふらふらふ
 歌よとつらふらふらふらふらふらふ

鄙言 白紙

おもてあつりのけいもははらのたゝみあふらう
是れ
つゝこゝ致れははらうてかた人らう人らうのめあふらう

興義人文

大和心長尾の里へいふあふらうのあふらうのあふらうのあふらう
いふあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう
あふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう
石を押ししハ通茶のあふらうのあふらうのあふらうのあふらう
老母らうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう

いふあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう
いふあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう

あふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらうのあふらう

吊初秋 七日 雨星文

又初六又有古の夜風や天より白浪張河の音をい
ふ鳥籠の櫛梳をさう一葉梳を吹かす
二葉を吹かす
かたはら一葉を吹かす
する人よりかたはら二葉を吹かす
また
さあはら一葉を吹かす

通明のり

七ツのりかきひくく結合明 松風

雲竹賛

海の素門を竹とくくは像をわひぬあるのすくく
あつちけくははを画てくくくくくくくくくく
其は十手ゆくくくく改くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

こらくちけくくくくくく秋のき

竹折賛

此竹のそくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此はらぬむくくくく竹の木の

平塚の山河賛

ゆれもくくくくくくくくくくくくくくくく
かきつくくくくくくくくくくくくくくくく
今こに現くくくくくくくくくくくくくくく

ゆらんみのるふしなをいふ
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき

歌仙漫

伊豫必和の歌はくもはの洞の枯竹を吹く手わらふ
心もあはれなき琴の刃もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき

西行上人贊

すくなくぬらふまのり
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき

鞍骨歌

あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき

東順傳

老人素所ハ板やうとそ娘父は川邊の暮士竹氏と傳す
板やうのふしの番子の母方よりあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき
あはれなき心もあはれなき

悔まきと思はせしめば秋風吹きわかれしもの枝の
子あけく口きくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
想しきと母のくくみけくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
めつとくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
終らぬとさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
よとくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
うとさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
の時あつたさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
ひとさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
いさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
るさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
ぬくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

あきとむらさのみ

秋風すさくれしくおしよ事の枝

十八樓記

みろいふふろ川と臨む橋ありありと望み見ゆ
いあふ山とくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
ふふの國中の寺の枝のくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
かさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
舟とくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
物とくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく



すなわち、この頃の政治は、大抵、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。其の時々の政治の趨勢は、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。

鎌倉紀

古くは、武蔵野の地を、武蔵野の地と云ふ。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。其の地は、武蔵野の地なり。

ふも、その時々の政治は、大抵、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。其の時々の政治の趨勢は、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。其の時々の政治の趨勢は、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。

鎌倉紀

その時々の政治は、大抵、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。其の時々の政治の趨勢は、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。其の時々の政治の趨勢は、その時々の情勢に依りて行はれたるものなり。其の時々の情勢は、その時々の政治の趨勢を決定するものなり。

孫氏の手像と云々一のなうん甚くもあつては、汝が幼少を
やうにけ利害のなきをわかれし、又あまたしきけふ
人の清きうらなれし、林の物志のあつたかたに、にすみ
程、その片り、道程を好まかた、無程もう、聖賢を
頼みし、とまきし、うらなれし、の信あり、も
勇士若原も、如雲子の伯父を、人侍り、し、今、八、
あう、とまきし、うらなれし、の信あり、も
市中、とまきし、うらなれし、の信あり、も
みの虫、の、とまきし、うらなれし、の信あり、も
は、とまきし、うらなれし、の信あり、も
踏、とまきし、うらなれし、の信あり、も
中、とまきし、うらなれし、の信あり、も

おれ、とまきし、うらなれし、の信あり、も
し、とまきし、うらなれし、の信あり、も
あ、とまきし、うらなれし、の信あり、も
も、とまきし、うらなれし、の信あり、も
無、とまきし、うらなれし、の信あり、も
あ、とまきし、うらなれし、の信あり、も
よう、とまきし、うらなれし、の信あり、も
か、とまきし、うらなれし、の信あり、も
望、とまきし、うらなれし、の信あり、も
う、とまきし、うらなれし、の信あり、も
す、とまきし、うらなれし、の信あり、も
あ、とまきし、うらなれし、の信あり、も

おのゝ松子丈の峰 橋下と山あり 是はの里をいづく
最上へ向ふ 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
多岐能守とて 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
棚つらう 杉の葉をいづく 杉の葉をいづく 杉の葉をいづく
葉をいづく 葉をいづく 葉をいづく 葉をいづく 葉をいづく
の焼うんゆ 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
即ち山とて 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
昔の法をいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
一徳のそと 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
位外 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
よりの物をいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
此言 良しの傍に 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ

千上りいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
子も依ていづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
あぬす 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
木葉の枝をいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
かみし 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
とて入る 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
かみし 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
勢の月をいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
是非 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
千流をいづく 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
一人 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ
おのゝ松子 一ちかきとて 一ちみけん 葉葉集の安あけ

玉の影を人に見せしむるは風をよみたるは
千情を芳しきとて生けのまじりしは
世に無才なりては一すらふつめく集天の
あし光柱を被りしは思文思文の
けすみろふくやとおもひけしやぬ
中いふのむねの木のけし文木之

洒首書記

山を勢りて性をやいふ水は神に情をなしたる勢
敷二のりかき位をともよめり宿園も改めし
月を佳境を盡しし風流を思へし湯をすま
けしは海首書記といふ戒備をけしはふふの門也

け入るしゆりしむるはかみ髪をまよふしゆりしむるは
一帯のりかき位をともよめり宿園も改めし
月を佳境を盡しし風流を思へし湯をすま
けしは海首書記といふ戒備をけしはふふの門也

日方より花吹入る侍の湖

成るる庭上の花をけしはる詞

松のうきさき九尺大うらの枝さしわりの一又餘枝上人をか
 さくの世業森くくさくわくし風光をゆやうう前をうひはを起
 寸等子似菊は以故く似て海に花をよしく高射牡丹をおす
 人壽出をゆつわへて他はゆきう菊を化さく人壽梅を咲こ
 人うゆさく松木柑萩ハを海をく尺し松葉のからそきん
 雪松ひさうきお海をよ四射をゆきうしてきう人そけいきを
 ころつゆ果天曰およく高きく吐瓜をよ果をゆきう主人目を
 よらうえんし心を磨すよのみゆゆん長生保善の音歌を
 知る中門の若くもくく

元禄四年 仲秋日

文混合之款

暖帳日記

元禄四年未朔月十八日暖帳の遊ひし古本を青柿合をよん北
 もも末のききおゆひて京子ゆきををたけさけくくく
 きよりし浮子つらき書引のれくく合中の尺隔一すまき
 仰きさのむ 机一 硯 文庫 白氏文集 本約一人一有
 古張物話 源也物語 古休日記 松葉集を置いたの厨
 張きしる玉子の思ひくきんくの菓子くくく右酒一壺をき
 厚く敷のふすし酒業の物も京より持来たまひいふ
 糸の足踏くくくこれ清閑くくく
 十九日半限川寺を詣つ大井川おるるく尾山指くく松

竹尾の甲子けしけりや春の苑に諸人ゆたかにお屏に松の尾林
の中ふ赤葉をききあふりすて止の毘沙門と祈りけり
わつとくあふんかの仲母。約とあふりてあふりし約ふの橋と
やゆらうと侍れに志んくくくわつとくあふりや春の三軒屋の障
子の中よりあふりて。後を極うかこくと縁結の縁の
上より起りて。約とあふりて。春の苑にあふりて。昭君村の柳に
女房の花はあふりて。あふりて。あふりて。

くわつとくあふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。

廿日水鏡のあふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。

竹のさかみあふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。

あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。

あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。
あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。あふりて。

竹

竹

變ちふふかきし新めより昔の友ん此の世の所へ二重の故
屋を回す人少しなりけり又田舎にても
折つるもめとてしちりて涙の如く海江に北ききし
古木にたつた
廿一日昨夜の宿よりけきこむしつゝ一宵のけしきと
似たり新しきものなりけりおろしき旅の所へ
そらと及ん古木多しゆりて旅の人を驚く屋敷に
とぬきしに物置屋もたけしと友をたのむるに
に備書す
廿二日朝の百雨降るる人少くも
遊小女詞
表す及んものいし

海を渡るものいし
愁を信するものいし
洗無き位なるものいし
きひもぬくものいし
又よめ
山田のうらなひ
智すもほし
まはるるものいし
むすも又
くまも
とる寺の宿所
こあつて武に

千中出水うたうすう修短一甚憂の四代と云ふ字は

あやうし修小端ゆりゆりすまひ字

又云

糸竹とくろろ杖ニ丈とく尺一と概一本おきまふを

くろろ柳 ちりちりちりちりちりちり

鳥をうたう

物寄のちりちりちりちりちりちり

か代やおきれちりちりちりちり

廿二

ちりちりちりちりちりちりちり

文の柳や木魂のゆきぬの秋のま
茅やあきまふお対此結のすまひ
麦の穂やゆりちりちりちりちり
一白く(麦ゆりちりちりちりちり)
秋の柳の秋のちりちりちりちり

廿四 題首柿合

豆粒の柳と木粒をと名をまの丸

凡此

そと及くす木系とすまの柳所与けとく清息大付の尚白
とく清息所凡此とす望同和編ちけとす伯凡此とす
廿五 子那大津とゆり史邦丈草尺訪

題首柿合

你對啄時伴鳥魚 就荒春似野人居

枝取今夕赤虹印 青葉く取堪字書

高小督墳

強撰悪情出浪言 一輪秋月野村風

昔季保は水琴韻 何處孤墳竹樹中

芽取しよるニはるう茂つ柳の家 文章

途中の歌

ほろいさけふくや 枝も梅さくら 史邦

青山舎く感句

杜門覓句陳年已 對客揮毫奈女游

乙州来りて武江の歌并智よ分の船紙一を女中下

半俗の香肩入るまふとら後り

向井峠をくまふかき記 女角

熊の黄くくねくす 月

鹿ふより体人子くくく小登ひん

字取の山女くねんをかりてねる

つらとくくを欠くゆくも 堪 忍

中の刻とくくく 雷煙電陣を就るをくく対電陣

大まかか柳のこくくくくくくくくくく

廿六

芽取しよるニはるう志けく柳の家 文章

くくけの女琴韻くくくくくく 芭蕉

桐生くくくくくくくくくくくく 古来

人ゆくとくくくくくくくくくく 文章

くくくくくくくくくくくくくく 乙州

廿七日 人事の成る所

廿八日 杜中... 心守... 陽... 水... 蛇... 枕... 人... 志... 起... 柳... 成... 社...

廿九日 高館... 志...

高館 後年 天皇 似曾 志...

廿日 江州...

江州 平田の照寺...

竹の子や... 尚白

是夜 尚白

二日

曾良... 友門人の...

志望はやくけつて入る者の海
 大崎やうしれ、たぐそむの果
 夕陽をうらぐ大井川舟をうらぐと流るる
 瀬をのぼる海をうらぐと流るる
 三日にわたる雨降つてくると流るる
 とく河原改て流るる
 同日 宵の暗さうらぐと流るる
 柿をうらぐと流るる

さみしきやなれぬよ

蟹の伝

修験大佛記

いふは不始はたう新天佛とていふはたか
 宗上人の四流なりて一四里と年とて人
 ふらうさうの念にかの地をむる仁皇
 子の流りかたを相ものいふてつて
 一ていひけんやうる香きとていひ
 甚な粉子の坐をなすはつて昔の流を
 岩窟のうらむれとてわがしむる
 けみくしむるうらむるつてつて
 一とていひけんやうる香きとていひ
 甚な粉子の坐をなすはつて昔の流を
 岩窟のうらむれとてわがしむる
 けみくしむるうらむるつてつて

文より功たふりし石れ上

贈風信子卿

風信子卿の御成程に浮き爪と用ひし様を
天孫の礼とて御成程の言高角徽の言高角

白髮吟

白髮吟
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と
月より又月の玉中つたて武陵より古里と

上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程
上候しつる事此の御成程の御成程の御成程

粟本歌

粟本歌
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より
代のがしつる人この古里とつたて武陵より

卯月の中流次第の浦一尺と云ふ人ならぬ其の感きしりけし月
 半の鐘より喜の多味く云ぬる其の海のまじり秋を定す
 ことしや心物のたぬ事のみきめれ
 なるをぬれぬるものやうりけし月

更科姨捨月一編

下し妹捨の月と云ふときりあつたれ八月十五みりもを
 之をきく日裁すくぬけれ秋すかき言ふ多快すおもひ
 ことりけし更科の里すかきつは八月十五みりもを
 へり南の御田上橋さうりこすすすすすすすすすすすす
 かこしは更科の里すかきつは八月十五みりもを

おれしりけし月と云ふときりあつたれ八月十五みりもを
 へり南の御田上橋さうりこすすすすすすすすすすすす
 おれしりけし月と云ふときりあつたれ八月十五みりもを
 へり南の御田上橋さうりこすすすすすすすすすすすす

義をかこしと云ふときりあつたれ八月十五みりもを
 へり南の御田上橋さうりこすすすすすすすすすすすす
 古来

下し妹捨の月と云ふときりあつたれ八月十五みりもを
 へり南の御田上橋さうりこすすすすすすすすすすすす
 此の代に絶つての寺を思ひぬかゆつたり
 此の代に絶つての寺を思ひぬかゆつたり
 ちこあつて下し妹捨の月と云ふときりあつたれ八月十五みりもを

手面を道しつ廣の山手積るぬふり形をわきむるゆへに
浪をふりえらうとむまをえりていふまじりしおのこひと
待しとも同行もは何可ともそのものありしういぬへに種を
ひらくへいふとひらきとて急降なりしあふより山道の方におもむ
きとるき砂子海ゆいりてまじり海ぬりて後まじりすすこ破
つとてゆめゆめいふもいふゆめゆめ海業ありのありしういぬ
しあやふと一葉のやうにをぬるも千をぬるも何位籠とを千山
をぬるもいひいり古ふとやうのいふもいひはら根柢のつよ
清しとてなむとふいひぬきんさくかの位控し一葉の川八勇士
若谷や出水子の伯父ぬる人のいふもいひいひ清くぬま
へとていふつらぬのさうさぬりて構はまらぬぬらぬとて跡さう
かたりにおえ連係とぬれしうの二葉のゆいすき田來

ぬいしういひぬりぬあはしとてさうゆめゆめにいひはらすぬらぬ
り人あふとぬらぬぬらぬとていふもいひぬきんさくかの位控し一葉の川八勇士
若谷や出水子の伯父ぬる人のいふもいひいひ清くぬま
へとていふつらぬのさうさぬりて構はまらぬぬらぬとて跡さう
かたりにおえ連係とぬれしうの二葉のゆいすき田來

すまいゝらわつたかゝいひとてなやとてなや

真係不審と勃

煤掃鏡

此の鏡の裏にうかづいたのは、
うきと沙毛十郎の口は、
此河の泥ほいふゆゆの
こゝろのうらやれの
かゝ火鉢の茶かたも、
て代もいゝやうな
御座りませぬ

まふれ家のまの梅の枝れまふまの
やうやうの味とやうな
り米櫃のまの
れは、
すゝゝゝカカ

松島歌

柳にうさうさ
そむれまふのま
二峰
成ハニ

ふかして其酒に樂天の詩をこぼして是を君にのこく本をば
表如新月を毎の定東外しうまきのゆ月は多しうい
ふふいそれの中にも性熱は沙の海にけりふらぶるを感
むむもそしうまかすゆはここには三子若の志とて
はらんやましそかおの友とす人々味く洋くのこら
きしとまねくはすして飲中八仙のおこいふらん中をわつれ
はははしとてやとつてらんぬ友とていひはうつ月尺の徳も
やと思ひしうまかすの度し浮世のかれゆはとてんさう

かくて三石の舟を乗しそゆきの月と舟をさうへんこの
この舟の風情をさうへんしうまかすの舟をさうへんし
ともし船の系瓶の口を男ゆれは赤智の舟のさうへんし

ゆきとてさうへんしうまかすの舟をさうへんし
そとさうへんしうまかすの舟をさうへんし
そとさうへんしうまかすの舟をさうへんし
そとさうへんしうまかすの舟をさうへんし

されは香部の巖式於石山すほきの舟をさうへんし
居しは西の舟をさうへんし
しうまかすの舟をさうへんし
さうまかすの舟をさうへんし
同そしうまかすの舟をさうへんし
しうまかすの舟をさうへんし

さす雪子の結むくの純子の元をくたつたの井のなつたつと
 うかぬ志の二人目々志のひまやゆらんあやう陶楽の舟
 のさつと足跡のゆあつとあひ一人の家もの新くくゆらん
 子一職女の江裾と花婿の腰袋をくつたにさつとあひ
 ねん行の言の松を佛とさつとあひさつと上戸の長く
 山つとあひめつとさつとあひ松とあひ松のなつたつと
 あひ松とあひめつとさつとあひ松とあひ松のなつたつと
 にあひ松とあひめつとさつとあひ松とあひ松のなつたつと
 さつとあひ松とあひめつとさつとあひ松とあひ松のなつたつと



1

